

令和6年度 第1回結城市子ども・子育て会議 議事録

日時 令和6年6月18日（火）

午後2時から

場所 結城市役所1階多目的スペース

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 議事

（1）結城市こども計画（第3期結城市子ども・子育て支援事業計画）骨子案について

事務局より、資料1に基づき説明が行われた。委員からの質問・意見等は以下の通り。

- | | |
|------|---|
| 稲葉会長 | 響きやすい、言いやすい、記憶に残るようなリズム感のある文章がよいと思う。基本理念案に対して意見・質問はあるか。 |
| 白石委員 | 案3が包括的で短くてよいと感じた。 |
| 委員 | 同じく案3が簡潔で分かりやすいと思う。 |
| 荒井委員 | 同じく案3がよい。 |
| 須藤委員 | 「こどもまんなか」というワードが入っている案1か案3がよいと思う。 |
| 稲葉会長 | 「こどもまんなか」という言葉は今までなかった。 |
| 事務局 | 「こどもまんなか」は国もキーワードとして推し進めている。 |
| 瀧田委員 | 上部団体で2～3年前から「こどもがまんなかまちづくり」を推進している。文科省でもキャッチフレーズとして「こどもまんなか」を採用している。案3がよいと思う。 |
| 塚越委員 | 案1か案3がよい。「こどもまんなかのまちづくり」で「の」が入っているが何か意図はあるのか。 |
| 白石委員 | 案3は「の」を取って「こどもまんなかまちづくり」の方がすっきりすると思う。 |
| 塚越委員 | 同感である。 |
| 藤枝委員 | 案3がよい。同じく「の」はなくした方がよい。 |
| 秋葉委員 | 案1は第2期計画と最初の文言が同じである。計画も変わるので案3の方がよいと思う。 |
| 高橋委員 | こどもをまんなかにして未来を育むという考え方に共感できるので、案3がよいと思う。 |
| 稲葉会長 | 案3がよいという意見が多数だが、事務局はどうか。 |
| 事務局 | 案3の「の」を省いた「こども・若者の未来を育む こどもまんなかまち |

づくり」を採用したいと思う。

稲葉会長 「の」があると言にくいかな。
事務局 省いた方がリズム感はよくなると思う。
稲葉会長 基本理念は案3に決定する。

(事務局説明のつづき)

稲葉会長 P9の赤字の部分が新たに力を入れていく目標か。
事務局 はい。また、基本目標2(3)を基本目標1(2)に移動させており、組み換えを行っている部分もある。

稲葉会長 今回の説明に対して意見・質問はあるか。赤字の部分は未実施なのか。それとも少しは実施されていて充実させていくという項目か。

事務局 今回は「結城市こども計画」を策定するにあたり、新たに包括して違う計画も組み入れるという考えがあり、国が推進している「こども大綱」の中で掲げられている目標を、基本目標として追加している。

稲葉会長 第2期計画を推進してきて改善されたことを継続するものと、ステップアップして実施していくものがあるということか。

事務局 子どもに対する施策なので、第2期で取り組んできたものもある中で、国で掲げた目標により近い形で基本目標を体系化した。

白石委員 P8のように太字ではっきりと基本目標が書かれているのはよい。P9では第2期と比較して示されており、メンタルヘルス対策、インターネット対策等の具体的な項目が盛り込まれている。今後は予算を組み、いかに実現していくかが重要である。目標としては完成度が高いと感じた。

稲葉会長 基本目標が高いのはよいが、どこまで実現できるかは財政の問題でもある。絵に描いた餅にならないよう推進してほしい。計画がどのくらい成功するか、子ども福祉課の力量が問われている。

事務局 基本目標は骨子案ということで暫定的なものであり、今後の計画策定会議で検討を進める中で内容の変更もありうる。その際は、皆様のご意見をいただきたい。

稲葉会長 先日のアンケート結果によると、約40%の方が子育てしやすい市であると回答している一方、施策はよいが経済的な補助を希望する意見も寄せられている。

事務局 子育て世代が次子出産を躊躇する理由として金銭的、年齢的背景があり、それに対する貴重な意見をいただいている。計画に盛り込めるよう参考にしたい。

稲葉会長 引きこもりや登校拒否の子どもたちが増加している中、結城市南にも新たな動きが出ている。

瀧田委員 結城市の人口が12月末に5万人を切った。人口が減れば市の活力も減る。少子化が進んでいるが、グレーゾーンの子どもは近年増えてきている。当園では障がい児保育はしていないが、療育を要するお子さんは年々増加

しており、市で相談を受け入れていただきたいと思っている。国でも小学生は 35 人学級、保育園の 4～5 歳児は 30 人に対し 1 担任となっている。1 担任が担当する人数は縮小傾向になっているが、結城市でも他市に先駆けて少人数クラスを推進してほしい。

藤枝委員 保護者も自身の人生を楽しみたいという傾向が強い。子育てについては義務感と言うより、子どもと一緒に生活を楽しみたいという気持ちが多い。保護者の生活が思うようにいかず児童虐待に結びついてしまうケースも多い。隣近所の助けあいも減っているが、信頼できる相手であればつながりたいという気持ちもあると思う。つながりができれば安心して子育てができるのではないかな。アンケート結果では、安心して相談できる先として児童相談所は 0 % だった。児童相談所は、相談に行けば子どもを連れて行かれるようなイメージもあると思う。市役所の相談窓口も気軽にいけないのではないかな。もっと身近な相談窓口があればよいと思う。

高橋委員 子育ての冊子を作成した際に、障がいのある子ども、グレーゾーン、療育が必要な子どもを持つ保護者から「未就園児健診では様子見と言われるが、小学校入学後に発達障がいの対応に苦慮する」という現状を聞いている。「もっと早い段階で子ども福祉課が対応できないものか」という声も挙がっている。療育に力を入れていく必要があると感じた。親の心の不調はこどもにそのまま影響するので、こども・若者のメンタルヘルス対策だけでなく、保護者のメンタルヘルス対策も考えてほしい。

事務局 健康増進課の 2 歳半、3 歳児健診で療育に繋いだ方がよいと思われる場合は、個別に声かけをしていて、相談も受け付けている。療育が必要と思われる方を対象とした教室も、保育士や臨床心理士を呼んで開催している。国では 5 歳児健診を開始する方針である。本市でも来年度から 5 歳児健診を開始できるよう準備を進めている。3 歳児健診後から就学前健診までの 2 年間に組み込むことで、不安に寄り添えるのではないかと考えている。

高橋委員 健康増進課で実施している 2～3 歳児向けの療育は無料だと思うが、民間が実施している療育を選択した保護者に対する補助金等はないのか。

事務局 今のところない。病院に相談する保護者も多いと思うが。

白石委員 国が打ち出した 5 歳児健診については、徐々に始まっている。日本小児科学会の茨城地方会でも受け皿をどうするのが話題になっている。多くの小児科医は発達障がいについては不得意であり、一極集中を避けるため、全小児科医が知識を得て、スクリーニングを行い、療育への道筋を作っていきたいと考えている。結城市で実施される 5 歳児健診を前に、都内で既に実施されているものをテストケースとして茨城県に持ち込み、県内の数施設で実施し県全体で学んでいくという途中の段階にある。多動症等の子どもは昔に比べて増えているという実感がある。私自身は、発達障がい等のお子さんには、筑西いけだクリニックを紹介したり、それ以前は窓口となっていた白石百合先生にお願いしたりしていた。

事務局 令和 9 年度から「こども誰でも通園制度」が開始される予定である。保

育士等の専門職の目が入れば、療育が必要なこどもの発見にも繋がると考えている。

瀧田委員 療育を必要とする園児が増えてきている中、市役所の健康増進センターと連携して相談を受け付けている。小学校でも同様に問題になっており、これからは皆できちんと面倒を見ようという環境づくりも必要であると考ええる。

稲葉会長 行政も対応しようとしているが難しい問題である。市民側は、行政から救いの手を差し伸べてほしいと切望しているのではないかと。相談に行きづらければ来ないし、行政も発見できない。保健センターと子ども課との密接な連携が図られればよいのだが。

須藤委員 本校は590名の児童がおり、支援学級が10クラスある。更に外国人学級が2クラス、支援級と通常級の間のグレーゾーン学級も2クラスある。支援級の児童も、パニック障がい、多動症等さまざまである。保護者の困り感も大きく、過干渉、放任等さまざまである。職員の若返りもあり、子育て経験のない担任が指導するというケースが多く、児童や保護者の対応に悩みながら日々取り組んでいる。学校内でも相談に乗っているが、保護者からは満足な理解を得られない状況である。担任や保護者へ直接に具体的に寄り添ってもらえる体制がほしい。スクールカウンセラーも常勤を望む。

稲葉会長 スクールカウンセラーの人数が足りないという声が多い。

事務局 ここ数年は教育委員会とも密に連携を取っている。結城市として学校へのより良い対応を考えたい。

稲葉会長 他に意見等なければ、結城市こども計画、第3期子ども・子育て支援事業計画、骨子案について、現在までの進行は了承ということにする。今後、計画を読み込んでいただき、皆様の意見を取り入れていきたい。

(2) その他

事務局より、アンケート調査報告書について計画素案の策定に向けて参考に目を通していただきたい旨、また、今後のスケジュールについて説明が行われた。

委員からの質問・意見等は以下の通り。

稲葉会長 パブリックコメントはどこに置いて実施する予定か。

事務局 図書館、情報センターの窓口、各出張所等である。

稲葉会長 市役所の入口の反対側はどうか。

事務局 置き場所はほぼ決まっている。子ども福祉課の窓口にも置く。

稲葉会長 計画の冊子は何部印刷するのか。誰に配るのか。

事務局 パブリックコメントについては、ホームページ上で閲覧可能である。

事務局 計画書は200部、概要版は500部である。まずは、子育て世代に配布されるべきものだと考えている。

稲葉会長 転入者に対して子育て支援の冊子が配られるが、引っ越して来た時にし

か手に入らないと聞いた。有用なのにもったいないと思う。

事務局

今後、配布先については今後本会議の中でも検討をさせていただきたい。

4 閉会

以上